



第1会場●4F 大研修室

■司 会／松尾 透 長崎市野母崎行政センター 主査
上原眞寿枝 生涯学習インストラクター

1 青少年の社会参画・体験スタジアム：チャレンジ！「からつば」 10:45～11:10

八島 大三（佐賀県唐津市） 唐津市教育委員会生涯学習課 社会教育主事

小中学生35名、高校生、大学生、大人35名、世話人10名で構成する青少年の社会参画を推進するグループ。都市コミュニティセンターを拠点として、毎週土曜日の定期活動、5泊6日のキャラバン隊、シンポジウムの開催など年間を通した異世代間の交流と子どもの居場所づくりを実践した。

2 NPOコーチズによる健康促進、雇用増大、青少年支援など多目的な生涯学習実践 11:10～11:35

児玉 宏（広島市） NPOコーチズ 代表理事・コーディネーター

法人の目的はあらゆる世代を対象としたスポーツの啓発・普及活動である。具体的には、指導者の派遣、健康づくり運動教室の企画開催、特別プログラム「座・ソーラン」などの創造である。特に、高齢者に対しては力点を置き、「生活の質の向上」→「医療費削減」を目指している。同時に、元暴走族少年たちの経済的自立と社会性の構築、人間関係づくりもねらいとしており、青少年が高齢者をケアすると同時に、高齢者が青少年をケアする場にもなっている。

3 市民中学「ひまわり学級」の学社融合 11:35～12:00

太田 康子（北九州市） 北九州市立光貞市民センター 館長

中学校と隣接した地の利を生かし、成人市民が中学校の各種教科；歴史、国語、社会、理科、家庭科、英語、数学、パソコンなどを通した往年の中学生回帰の実験。学校側の全面的協力を得て、校舎内の教室を活用し、年間を通して、中学校教員の指導を受ける。学校との交流は生徒はもとより、教職員との心理的距離が近くなり、学校に対する受講生の理解も格段に進んだ。成果は公民館の文化祭にも還元され、学校側からの地域人材の紹介依頼を機に学社のつながりは更に深化する。

4 総括討論 12:00～12:30

第2会場●4F 視聴覚室

■司 会／野口 高幸 鳥取県教育委員会西部教育事務所 社会教育主事
田原 優子 佐賀県立生涯学習センター 企画副主任

1 「マロニエ音楽祭」を支えるコミュニティ文化と生涯学習の発想 10:45～11:10

－「市民さわやかイベント運営セミナー」の生み出したもの－

岩坪恵美子（鹿児島市） 鹿児島おかみさん会 会長

市民講座「イベント運営セミナー」の受講者が仲間を募って実行委員会を設立。自らの生涯学習実践とコミュニティ文化への参画をかねて、地域の公民館を拠点として手作り音楽祭を発足させた。地域住民の理解と協力を得て、学校の生徒を始め、出演者の希望は多く、出演後は準備委員として開催・運営を協働するサイクルも出来つつある。16年度からは後援会方式を導入して財政面を強化したが、活動の浸透と共に地域企業から協賛金も得られるようになった。

2 「(株)鉄の歴史村」：過疎への挑戦の原理と方法 11:10～11:35

－「交夢員」がつくるまちづくり会社－

松島 俊枝（島根県雲南市） 株式会社鉄の歴史村 マーケティング戦略プロモーター

雲南市旧吉田村地区の活性化を図るため、平成16年、ツーリズムの発想を生かし、過疎地の自然と歴史環境を前面にだしたまちづくりのための株式会社を設立した。主たる活動の場は、たたら製鉄で有名な「鉄の歴史村」、宿「若槻屋」、山里カフェ「はしまん」などである。課題は、マーケティング戦略、宿づくり、農業体験や創作体験のプログラムの技術戦略、地域内組織の連携などコミュニティ戦略、最後は全国ネットワークの活用であるが生涯学習実践交流会は格好のマーケットである。

3 市民センター「館長公募制」と生涯学習振興の方法論 11:35～12:00

寺坂 博文（北九州市） 北九州市教育委員会生涯学習課 社会教育主事

北九州市教育委員会は各コミュニティの生涯学習・生涯スポーツの拠点となる市民センターの館長を公募するシステムに踏み切って久しい。「公募制」はコミュニティレベルの市民活動をどのように活性化したのか？なぜ活性化したのか？手続きや登用上の問題点はなにか？「館長公募制」を継続する理念的背景とメリット／デメリットを分析し、それが生涯学習の振興にどのように具体化されていくのか、その方法論を聞く。

4 総括討論

12:00～12:30



第3会場●2F 第4研修室

■司 会/好満 修 広島県教育委員会生涯学習課、主任主事
吉丸みさ子 福岡県穂波町立高田小学校 教諭

1 ブックスタートから始まる親子読書活動 10:45～11:10

ー子育てサロン・おはなし情報局の実践よりー

遠藤ゆかり（鳥取県境港市） 子どもセンター ボランティアコーディネーター

境港市は平成14年にブックスタートを開始、その後月1回の子育てサロンと組み合わせて親子の読書活動をサポート。5団体の読み聞かせグループの協力を得て、幼児と小学生を対象別に「おはなし情報局（おはなし会）」を実施している。また、読書活動支援者養成講座（託児付）も開催。課題は、父親及び孫育中の祖父母の参加者の獲得である。

2 「里山元気塾」の地域振興、交流促進プログラムの原理と方法 11:10～11:35

小谷 博徳（鳥取県日野町） 里山元気塾 塾長

小学校の統廃合を契機に、地域の地盤沈下を食い止める目的で「里山元気塾」を設立。地元高齢者を中心に農産物加工・販売を起点として出発。スローフード運動を推進すると同時に、地域活性化交流の促進を掲げて「里山ものづくり大学」を起こして、職の創造につなげ、「若者地域づくり」事業にもつなげている。年間を通じて定期的な活動を続けており、人脈を活用した参加者の確保によって事業は黒字決算に漕ぎ着けている。

3 廃校の活用による「元気の森かじか」の地域づくり 11:35～12:00

濱田 孝正（熊本県美里町） 元気の森かじか 館長

NPOシステムによる施設運営を取り入れ、活動の中心はNPO元気の森、自主グループ「キッチンかじか」及び登録ボランティアであるが、町外の団体とのパートナーシップも組んで多様な参加と広がりを実現している。目的は子どもの体験による育成と元の小学校区を基盤とする地域の「元気」づくり。現在「セルフ型」の体験プログラムを開発中。

4 総括討論 12:00～12:30

第4会場●2F 自由研修室

■司 会／石川 順雄 広島県尾道市教育委員会生涯学習課 派遣社会教育主事
西山香代子 山口県生涯学習グループ「やまぐちネットワークエコー」 事務局長

1 地域連携によるプレイパークの創設とコミュニティづくり 10:45～11:10

新道 欣也（熊本市） 龍田プレイパーク実行委員会 副委員長

中学校区をエリアとし、地域の“交流の森”を目標としている。学校、PTA、NPO等が参加したネットワーク組織を立ち上げ、新しいコミュニティの形成を子どものプレイパークづくりを通して実現している。子ども自身による冒険遊び場づくり、「森の中のコンサート」、中学校の総合的学習の実施等多様な展開が見られるようになってきている。

2 鹿町町教育ネットワーク(学社融合)推進事業 11:10～11:35

ー地域ぐるみで育てよう「タフな鹿町っ子」ー

池田 利夫（長崎県鹿町町） 鹿町町教育委員会 派遣社会教育主事

学社融合の手段を用い、学校・子どもたちに関わることによって、子育てネットワーク構築、生涯学習の推進、地域全体の教育力の向上を目指している。「学社融合推進委員会」は地域のあらゆる教育関係団体を網羅している。主な事業は、学校支援ボランティア派遣事業、教職員の支援による公民館講座と学校の融合事業、サポートティーチャーの導入、地域ふれあいギャラリーの創設、情報誌「しかまちネット」の発行等…みんなで楽しみながら実践中。

3 地域が創造した体験活動舞台「プレーパーク千鳥園」の理念とプロセス 11:35～12:00

ー子どもの声が地域をつなぐー

松崎 正（島根県益田市） プレーパーク千鳥園 主宰者

ゲストティーチャーの体験の中から子どもの自然体験の欠損を痛感し、休耕田を活用したプレーパークの設立に着手し、地域の方々の協力を得て月1回のプレーパークでの活動が続いている。現在、地域のボランティア20名に加えて、高校生のプレーリーダーを得て、ものづくり、地域づくりの拠点に育ちつつある。平成17年度からは放課後の開放も企画中である。

4 総括討論 12:00～12:30



第1会場●4F 大研修室

■司 会/田上 明利 熊本県鹿本教育事務所 社会教育主事
濱島 真澄 鹿児島県立青少年研修センター 研修主事

1 NPO法人りべろの子ども支援プログラムの内容と展開手法 13:30～13:55

中川 一男 (島根県浜田市) NPO法人りべろ 統轄責任者

29泊30日の超長期のサマースクールである。子ども達に生活の中の自立を教えるために、事前に周到な準備をした上で、できるだけ人工の施設は利用せず、“むきだしの自然”に立ち向かわせることが重要であると考えている。仮のスケジュールは作成するが、子どもの意志決定、想像力、創造力を重んじ、日々の活動メニューの決定まで任せるように配慮した。

2 環境教育指導のためのスキルアップセミナー 13:55～14:20

－「プロジェクト・ワイルド」や「プロジェクト・アドベンチャー」の基本理念と技法－

中根 忍 (沖縄県北谷町) サンゴとブロッコリの森自然学校 代表

総合的学習への環境教育の導入を目ざし、学校とNPOが連携する委嘱事業の一環。プロジェクト・ワイルドとはアメリカで開発された教育者向けの生き物を題材とする環境教育プログラムを意味する。日本では(財)公園緑地管理財団がアメリカの環境教育協議会とライセンス契約して普及に務めている。一方の「プロジェクト・アドベンチャー」は人間関係づくりの技法である。本事業は沖縄県北谷町教育委員会との共催による小中学校教員や社会教育関係者を対象とした実践的セミナーである。

ティータイム 14:20～14:55

3 子育てネットワークの形成による活動・支援・協働の展開 14:55～15:20

－宗像子育てネットワーク「こねっと」の実践－

棚橋美智子 (福岡県宗像市) 子育てネットワーク：こねっと 代表

1999年1月に発足。現在9つのサークルが連携・交流している。活動は多岐に亘り、行政との協働を含む「外遊び講座」、「子育て講演」、「親子遊びの講師」、「こねっと通信」の発行、ホームページの作成、子ども祭の実行などである。子育て中の保護者の生の声を行政に伝えること、こねっとメンバーが行政の各種委員会に所属し、「子育てしやすいまちづくり」を目指して、会としての「提言」、「発信」にも力を入れている。今年度からは、行政と協働で子育て支援センター「ふらこっこ」の交流事業も実施している。

4 「有志指導者」による全日制「豊津寺子屋」の「保・教育」実践の原理と方法 15:20～15:45

－「元気のためのカリキュラム」の創造－役場内プロジェクト－学校施設の開放－

高津はるみ (福岡県豊津町) 「豊津寺子屋」実行委員会 会長

中村 彰夫 (福岡県豊津町) 同 副会長

「寺子屋」の指導は熟年を中心とした「有志」の住民指導者が行う。「表」の目標は子どもの元気を引き出す異年齢の「体験活動」を中核としている。「裏」の目標は指導に当たる熟年指導者のお元気と保育と教育を統合することによって女性の社会参画の条件を整備することである。運営にあたっては、学校施設の開放を日常化することによって実質的に学校の「コミュニティ・スクール」化を図り、合わせて役場内の関連部局の連携を前提とした「プロジェクト方式」を採用して、行政の縦割り／分断の弊害を予防している。最終目的は、子育て支援システムの「未来モデル」の創造である。

5 総括討論 15:45～16:15

第2会場●4F 視聴覚室

■司 会／福島 伸二 熊本県教育庁社会教育課 社会教育主事
福田 充雄 島根県横田町立馬木小学校 校長

1 ポーン太の森自然冒険塾の7つの課題 13:30～13:55

小野 豊徳（福岡県東峰村） 東峰村レクリエーション協会 会長

親の理解と親子の共感が子どもの成長には不可欠という根本認識に基づき、親対象のキャンプと子ども対象のキャンプを同一会場で実施。子どもには、「刃物の使用」、「火の使用」、「夜の闇」、「川遊び」など7つの課題を準備した。一方の親には、アウトドアクッキングとクラフト活動を準備、「今、子どもに求められる自然体験」のディスカッションを行った。

2 子育て支援と交流の輪づくり 13:55～14:20

ーささやかな発信ー着実なネットワークづくりー

藤田 千勢（山口県長門市〔旧油谷町〕） 長門市主任児童委員

児童委員の経験から子育て支援の重要性を認識し、「ふれあいサロン」、「母親クラブ」などの名称のもとにさまざまな試行を重ね、現在は、さまざまな仲間の協力を得て、自宅を開放して25～30組の未就学児童の親子が参加する「ひよっ子クラブ」を主催している。活動は多目的で子育て支援を中核としながらも、母親同士のふれあい；「しゃべりば」、地域で読み聞かせや紙芝居を実践しているサークルとの協働、男女共同参画理念の実現など複合的な活動を展開している。

ティータイム 14:20～14:55

3 NPOグループによる不応問題に関する総合支援体制の創造と実践 14:55～15:20

谷口 仁史（佐賀県武雄市） NPOスチューデント・サポート・フェイス 専務理事

SSFは会員約90名。不登校、引きこもり、非行などさまざまな不応問題に当面する子どもを対象に、主として「訪問型支援」に取り組んでいる。具体的には、20代の若者を家庭教師として派遣し、直接的な教育支援を行う。9割以上の受け入れ家庭から「改善」の報告が届いている。会はその他講演、研修、情報誌の発行、シンポジウムなど総合的に教育支援を行っている。

4 科学と遊びの出前講座による生涯学習ネットワークの形成 15:20～15:45

藤本 忠男（岡山県新見市） わくわく科学ランド 代表

新見市・高梁市の学生・教職員を中心に形成され、さまざまな団体や地域に科学と遊びの楽しさを出前して人々の交流をつくり出し、“仕掛人”活動による生涯学習のネットワークづくりが目標。現在メンバーは20名程度。活動は岡山県全域、年間の活動回数は40～60回。1回の活動には4～5人のメンバーが参加する。参加事業は幼稚園から中学校までのPTA行事、公民館、教育委員会の事業などである。

5 総括討論 15:45～16:15



第3会場●2F 第4研修室

■司 会／岩切 義和 大分県教育庁生涯教育課 主任社会教育主事
広中 郁美 島根県立西部生涯学習推進センター 社会教育主事

1 生活体験塾「あすなろ」の「自立」、「協調」、「健康」、「国際交流」プログラム 13:30～13:55

尾形 文昭（長崎県諫早市） ネットワーク「あすなろ」 代表

プログラムの核は通学合宿である。参加対象は小学校の4～6年生で通学合宿を体験していないものである。親元から離れての集団生活によって生活の自立を目指している。プログラムの主眼は表題の通り4つの領域に渡っている。各小学校への広報は学校の担任を通して協力を得、国際交流については留学生の協力を仰いでいる。

2 子どもたちとともに歩み、地域と連携するPTA活動の展開 13:55～14:20

古江 信一（大分県中津市） 大分県立中津北高等学校 PTA会長

日常生活の実態が見えにくくなった子どもたちを少しでもよく理解するためには、親の側から関わって行くしかないと思われ、子どもと地域社会とPTAが連携した様々な活動を工夫して実践した。具体的には、PTAと生徒会が連携した夏休み中の「ごみゼロ運動」への参加、父親の学校への関わり、相互の意見交換を深めるための夜間の「おやじの会」の実施、PTAの学校祭への参加事業としての「北校祭もちつき大会」の実施などである。どの事業も参加者の評価が高いので今後の継続を予定している。

ティータイム 14:20～14:55

3 「ふれあいの森なんでも工房」の森林を活用した総合型野外体験プロジェクト 14:55～15:20

村田 真博（山口県周南市） ふれあいの森なんでも工房 事務局長

行政に頼らず6万坪の森にログハウス2棟、作業棟、各種小屋を手作りで建設、元気な子ども、元気な大人を支援、合い言葉は「材料と怪我は自分もち」。目的は総合的学習の支援、高齢者の生き甲斐の場づくり、森の再生など複合的。基本理念は「森は人を育む、人が森を育てる」。会費、指導料は無料。木、竹、紙、土、布、ガラスなどの工房を備え、野外体験のできる条件を備えている。

4 NPOかごしま生涯学習サポートセンター設立の目的と経過 15:20～15:45

後田 逸馬（鹿児島県） 志学館大学生涯学習センター 事務局長

市町村合併劇の中の液状化現象は、まちづくり学習の見直しを強く求めている。昨年1月発足した「まちづくりと公民館研究会」は、住民の意欲向上と問題解決学習を支援するリーダーの資質向上とネットワーク化を求めて、NPOへ発展解消することにした。地域の社会教育活動の継続性を担保するため鹿児島大学を拠点会場として、まちづくりと公民館のあり方の実践的な研究開発を目標としている。行政主導型の社会教育の枠を外して、多様な構成員による会費制の月例研究会、シンポジウム、キャンプや調査などの受託事業を行っている。

5 総括討論 15:45～16:15

第4会場●2F 自由研修室

■司 会／比嘉 良富 沖縄県西原町立子ども会育成連絡協議会 副会長
三瓶 晴美 山口県たぶせ雑学大学 企画運営委員

1 参加体験型人権学習プログラムの開発・普及の実践的研究 13:30～13:55

平谷 学（広島県向島町） 向島町人権学習プログラム推進協議会事務局

国・県の委嘱を受け、「広島県人権教育推進プラン」に基づいて向島町に人権学習プログラム推進協議会を設立し、学習者「参加型」をキーワードにして、町内6地域の高齢者大学の講座を活用して公民館活動の場に取り入れた。

2 活力ある地域づくりを目指した広域的な青年活動の取り組み 13:55～14:20

－南那珂地域活性化塾NK2の活動理念とプログラム－

稲田 博仁（宮崎県南那珂地域） 南那珂地域活性化塾NK2 事務局長

宮崎県の水路付け事業「地域ユースフォーラム」を起点として発展した地域づくりの団体で、南那珂地域の活動は串間市、日南市、南郷町、北郷町にまたがっている。目的は地域づくりと活動を通しての人材の育成である。活動は従来の市町村の枠にとらわれず、広域の交流を目指している。活動の対象は子どもを中心とし、「サンタさん行きます」、「星の旅人コンサート」などを行った。また、全県的には広域農業体験交流活動の事務局を引き受け南那珂地区で実施に成功した。

ティータイム 14:20～14:55

3 和太鼓チームの自己教育力と社会参画の活力 14:55～15:20

－結成15年「舞葵琉太鼓」の軌跡－

城間 恵子（沖縄県西原町） 舞葵琉太鼓 代表

子供会活動の一環として誕生した太鼓活動が15年を経て、小学生チーム、中学生チーム、高校生以上の社会人チームに分化、発展し、それらの総合が「舞葵琉太鼓」である。総勢25名の「打ち手」とその保護者で結成している。練習と演奏活動を通して、子どもの居場所、健全育成、社会参画、太鼓技術の向上を図りながら、学業や仕事との両立をめざす関係者の主体性、積極性の自己教育活動である。節目となる結成10周年記念チャリティコンサートは収益も上げ、益金は社会に還元している。

4 「異校種PTA」のネットワークによる生涯学習交流プログラムの創造 15:20～15:45

大塚 仁（大分市） 大分市立植田中学校 PTA会長

異なった学校のPTAが協力して、子ども、地域の住民の交流を目指して、「囲碁・将棋の対局プログラム」、「クリスマスコンサート」、「教育講演会」などさまざまなプログラムを創造した。中でももっとも力を入れたのは、幼稚園児から大人までがグループ別に参加した「チャレンジ！ードミノ倒し」大会である。地域の協力、作業過程における参加者の苦勞の共有、クライマックスの興奮などに加えて集客力も抜群で「ドミノ牌」の教材性が再確認された。

5 総括討論 15:45～16:15